

『課題解決型インターンシップ』 工大サミット連携 PBL 実習報告①

課題解決型インターンシップとは、

- ・『実践する力』（学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力）の育成を目的とした、2・3年生対象の選択科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の1つの型。
- ・企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。2名程度でチームを組み活動することにより、自分の専門性を活かしながら他者とチームで働く力を養うことができる。

- 企業名 : 広島工業大学
- 課題 : 広島・宮島町家の保存と活用
- 達成目標 : 現地調査に参加し、限られた実習の中で、地域が抱えている課題を理解する。また、課題解決を目標として、他大学の学生とのチームでの活動に主体的に貢献する。
- 概要 : 世界遺産・宮島（広島県廿日市市）にある伝統的な木造建築である「宮島町家」を取り巻く現状及び課題を抽出し、現地調査に基づいてその保存と活用に向けた解決策の提案を行う。

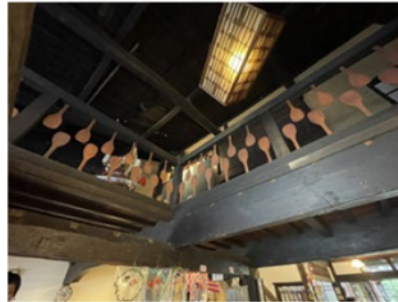
町家の壁面に張られたトタン



宮島町家の街並み



実際に訪れた町家の内観（昔この場所で作っていたしゃもじを活かしたリノベーション）



【課題発見編】

私たちは、まず、宮島の町家の構造やその歴史、課題について広島工業大学の教授から説明を受けました。その後、グループに分かれて、どのような課題を設定するかを検討し、フィールドワークを行いました。翌日、グループで協力し、PowerPointを作成し、設定した課題と背景に関する発表を行いました。

【課題解決編】

まず、前回設定した課題についての再検討を行いました。その後、フィールドワークを行い、課題の解決策の模索を行いました。フィールドワークでは、現地住民や観光客の方にヒアリングを行い、根拠のある解決策の提案ができるように準備を行いました。翌日、グループで協力してPowerPointを作成し、設定した課題とその解決策についての報告を行いました。

システムマネジメント学科 3年 村上 愛

私たちの班は「町家の魅力」に焦点を当て、フィールドワークの中で宮島の伝統的な町家が並ぶ町家通りでお店をされている方にインタビューをしました。その中で入ってみないと分からない内観が素敵な町家が沢山あったのでそれを伝えるべく解決案を考えました。

知能機械工学科 2年 近藤 佑亮

私たちの班では、町家の壁面に設置されたトタンが歴史的な景観を乱してしまっているのではないかと課題を設定し、それに対する解決策の提案を行いました。地元住民の方に対する聞き取り調査も行うことができ、私たちの班の主張を裏付けることができました。

・今回のインターンシップでは、他大学の学生と沢山関わることができ、非常に良い刺激になったと感じています。8月と9月の2度実習を行いました。9月の実習では8月の反省を活かして取り組むことができました。また、班のメンバーと協力して課題を発見し、それに対し根拠を基にしたいくつかのアプローチを検討し、最終的な解決策を提案するということは大学を卒業後、企業に就職してからも非常に重要になる力だと思うので、この機会に経験・習得することができて良かったと感じています。（近藤 佑亮）

・通常の学校生活では関わることができない他大学の人たちとの交流ができたことがとても刺激的でした。自分の学んでいる分野とは違う「建築」に関係するPBLだったため、良い体験になってとても楽しかったです。また、プレゼンを通して一つの課題を抽出するところから解決案を提示するまで筋を通して考える力を習得することができました。グループワークの経験は就活でも大いに活かせると思うのでこのインターンシップの経験を他のところで活かしていきたいです。（村上 愛）